様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６３５
研究種目：挑戦的研究（開拓）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｈ０５３１７・２０Ｋ２０３３６

研究課題名（和文）超高齢・多死社会への新しいケア・アプローチ：地域包括ケアにおけるFBOの役割

研究課題名（英文）A new approach to care for a super-aged and high-mortality society

研究代表者
小川　有閑（Ogawa, Yukan）

大正大学・地域構想研究所・研究員

研究者番号：２０７５１８２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　19,700,000円

研究成果の概要（和文）：超高齢化社会となった我が国において、伝統仏教資源（寺院・僧侶）が地域包括ケアシステムにどのように寄与・参画ができるかを多角的に調査研究を行った。①高齢者施設における入所者、施設スタッフへのスピリチュアルケアのニーズの存在が明らかとなり、特にスタッフの離職予防に宗教者の関わりが有効である可能性が示唆された。②月参りの実施分布を地図データ化し、可視化することに成功するとともに、アンケート調査から高齢者の見守り機能を十分に有していることを明らかにした。③寺院を利用した介護者カフェの利点をインタビュー調査等から明らかにした。④読経が口腔機能に及ぼす影響を医学的に調査・分析し、プラス作用を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
我が国で公共的な宗教の活動の研究は緒についたばかりであり、本研究が宗教と福祉・医療分野との連携の在り方やその効果を検証したことは、大きな学的更新を生んだと言える。
また、これまで地域包括ケアシステムの担い手として認識されていなかった伝統仏教資源が持つ潜在力・可能性をエビデンスをもとに明示したこと、さらには、地域包括ケアシステムの２つの欠陥（①スピリチュアルペイン（病や死に直面した人の実存的傷み）へのケアの不足、②グリーフ（遺族の死別の悲嘆）へのケアの欠如）を、伝統仏教資源が補えるという点を明らかにしたことは、よりよい地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現に大きく寄与するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In Japan, which has become a super-aging society, we conducted a multifaceted survey and research on how traditional Buddhist resources (temples and monks) can contribute to and participate in the Community-based integrated care systems. (1) The existence of spiritual care needs for residents and facility staff in facilities for the elderly was clarified, suggesting the possibility that the involvement of religious people is particularly effective in preventing staff turnover. (2) We succeeded in converting the implementation distribution of Tsukimairi into map data, and succeeded in visualizing it. It was clarified from the questionnaire survey that Tsukimairi has a sufficient function to watch over the elderly. (3) Through interview surveys, etc., we clarified the advantages of caregiver cafes using temples. (4) We investigated and analyzed the effects of chanting on oral function from a medical perspective, and clarified its positive effects.

研究分野：宗教学

キーワード：地域包括ケアシステム　超高齢化社会　宗教の社会貢献　仏教者の社会的責任　スピリチュアルケア　月参り　介護者カフェ　エンゲイジドブディズム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

超高齢社会の進展にともない、国家戦略として「地域包括ケアシステム」の推進が提唱され、各地で様々な取り組みが試行錯誤されている。地域のなかで高齢者を支えるネットワークをいかに構築するか、公助の限界が見えるなか、地域コミュニティ内の支えあいや民間事業者のサービスなどの私的領域での支援活動の強化、さらには公助と共助の連携が求められている。それにともない、厚生労働省は、地域包括ケアシステムやその進化形としての新福祉ビジョンを提案するなかで、公・民の各機関が連携するモデル図を示している。

しかし、モデル図に含まれていないものの、大きな潜在力を有する可能性があると考えられる組織がある。それが本科研で取り扱う FBO（Faith-Based Organization＝信仰を基盤とした組織）だ。FBO は、主に欧米において、宗教による福祉活動の分析に用いられており、信仰を基盤とし、その信仰を原動力として種々の活動を行う組織を指す。日本の現状に即して考えた場合には、その代表は伝統仏教寺院、および、所属する僧侶であると考えられる（JGSS では「信仰する宗教」「特に信仰はしないが家の宗教」に 7 割が仏教と回答）。

伝統仏教 FBO が潜在力を有する理由としては、思想・儀礼・臨床の各段階で老・病・死の問題を扱ってきた伝統があり、地域コミュニティのなかで物理的空間、社会関係資本の両面で存在し続けてきた歴史があるからである。挑戦的萌芽研究「多死社会における仏教者の社会的責任」（課題番号：15K12814、2015～2017 年度）では、高齢者福祉施設・医療機関のケア従事者 323 名にアンケート調査をおこない、入所者やその家族に向けた僧侶による傾聴・法話、寺院散策などのニーズを調べたところ、すべての項目で希望する者の数が過半数にのぼった。また、同アンケート結果からは、ケア従事者のバーンアウト保護因子として信仰が機能する可能性も示唆され、FBO がケア従事者を内面から支えているとも言える。以上の量的調査からも、現場に FBO へのニーズが存在することが明らかとなっており、全国に 7 万 5 千ある寺院、30 万人にのぼる僧侶が地域包括ケアの一員として参画することのメリットは大いにあると推測できる。

２．研究の目的

上述の社会背景、先行研究から得られた知見を踏まえて、本研究は地域包括ケアの一員として FBO が果たす役割を科学的に解明し、地域包括ケアシステムの一員として FBO を適切に位置づけることを目的とする。質的・量的に FBO の社会福祉への参画ニーズと効果を分析・証明することにより、これまで地域包括ケアの構成要素とみなされてこなかった FBO の潜在力を可視化していく。また、実際に FBO が地域包括ケアシステムのなかで機能するためには、他機関との連携が不可欠であることから、有効な方法論を構築し、広く社会に提示することを目指す。超高齢社会をより生き心地の良いものにするための社会実装まで射程に入れた研究である。

３．研究の方法

主に以下の研究を実施した。

①挑戦的萌芽研究の結果を検証・一般化するための実証的調査

本科研の前年まで取り組んでいた挑戦的萌芽研究において、首都圏の複数の福祉施設に調査をおこない、ケア従事者のなかに仏教者との協働ニーズがあることが明らかとなった。その結果が、他の地域でも同様にみられるものであるか、一定の普遍性を有するものであるかを検証する。対象は、国内の高齢者福祉施設の協力を得て、施設で働くケア従事者にアンケート調査を行う。得られた量的データをクロス集計し、仏教者との協働のニーズ、その動機・要因を把握する。また、許諾を得られた対象者には、インタビュー調査を実施し、質的な比較分析によって、因果関係をより深く探索する。

②寺院における認知症カフェの研究

寺院空間を利用したケアラーズカフェ・認知症カフェが、参加者にとってどのように有益か分析し、新しいコミュニティケアの可能性を探索する。すでに協力関係にある浄土宗総合研究所が開設に関わる寺院での認知症カフェを対象とし、まずは、その主催者にインタビュー調査を実施する。

③月参りの実態把握調査

菩提寺の僧侶が檀信徒宅を毎月訪問する月参りが、高齢者の見守り機能を有しているという仮説のもと、インタビュー調査、文献調査、アンケート調査を実施する。月参りの内実をインタビュー調査・アンケート調査により、月参りの実施分布を文献調査・アンケート調査によって解明する。

④新型コロナウイルスが寺院活動に及ぼす影響調査

新型コロナウイルスが寺院・葬送儀礼に及ぼす影響についてウェブ調査を実施する。葬送儀礼に与える影響などを経年調査する。

４．研究成果

①本研究では、A 県の特別養護老人ホームのうち同意が得られた 7 施設の常勤職員 245 名に無記名の郵送調査を実施した。主な調査項目は、基本属性、精神的健康（WHO-5）、看取り介護に関する経験・態度、信仰の有無、人への信頼、職場風土などです。看取りケアに対する態度についての質問項目「看取りケアに積極的に関わりたいと思いますか?」は 4 件法で評価し、その回答理由は選択肢から選んでもらった。看取り介護に関する経験は、過去 1 年間に入居者から死についての考えや気持ちを聞いたことがあるかどうかをたずねた。(1)「精神的健康不良」に該当する介護職員が 64.6%いた。(2) この 1 年の間に入所者から「死にたい」または「生きていても意味がない」などと言われたことがある介護職員が約 8 割いた。(3) 看取り介護に積極的に関わりたいと思う介護職員は約 75%だった。(4) 看取り介護に積極的に関わりたいと思う理由で多かったのは、自分を成長させてくれる、生死に関わることは尊い営み、などであった。(5) 看取り介護に積極的に関わりたいと思わない理由で多かったのは、もっと何かできたのではと後悔する、うまくできるか自信がない、人が亡くなるところを見たくない、むなしさを感じる、などであった。(6) 介護職員の精神的健康には、悩みを相談しやすい職場の雰囲気や人への信頼感、看取り介護への積極的態度が関連していた。(7) 介護職員の看取りケアに対する積極的な態度には、月当たりの夜勤の回数が少ないこと、死にたくない・死ぬのが怖いという入居者に接する機会が多いこと、職場に仕事の悩みを相談できる人がいることが関連していた。介護職員の看取りケアへの積極性を育むためには、仕事上の悩みを相談しやすい体制を整えたり夜勤頻度を少なくしたりするなどの環境調整が重要であると同時に、介護職員の死生観の教育や看取りの中で生じる悩みや葛藤のケアに対して、宗教者が関われる可能性がおおいにあることが明らかとなった。
②浄土宗では、超高齢社会における寺院の可能性のひとつとして、2020 年より「お寺での介護者カフェ」を推進しており、新たな FBO 形成の動きであると捉えられる。現在まで、北海道第一教区一ケ寺、宮城教区三ケ寺、山形教区一ケ寺、埼玉教区一ケ寺、東京教区五ケ寺、神奈川教区一ケ寺、静岡教区四ケ寺、尾張教区三ケ寺、京都教区二ケ寺、大阪教区四ケ寺、三州教区一ケ寺の合計二十六ケ寺でカフェが開催され、各教区において、寺檀関係のみならず、地域包括支援センターや社会福祉協議会など様々な公的セクターとの連携も見られている。
　研究グループではこの動向に着目し、全国各地で行われているカフェを調査してきた結果、参加者からは、「お寺でのカフェは温かみがある」「僧侶に親身にお話を聴いていただいた」「心が軽くなった」という感謝の言葉が寄せられ満足度を推し量ることができ、また、開催者の住職自身も「相手に一方的に説法をするばかりでなく、相手のお話を聴く姿勢へと変わっていった」「世の中には様々な苦しみがあり、幸せの度合いは人によって違うことに気づいた」「お亡くなりになったあとではなく、生前中から関わり合うことの大切さ」「関わっていくことが大事である」など、寺院や住職への期待と精神的なやりがいを感じていることが明らかとなった。
　宗教組織と社会福祉の連携を進めるうえで障壁となると思われていた戦後の政教分離の社会認識は、少しずつ変化している。寺院での介護者カフェの普及は、地域包括ケアシステムを担う重要な社会資源としての「寺院」の可能性を大きく広げるものであると言えるだろう。
③月参りに関する先行研究が皆無な状況のなか、まず月参りが行われている地域を明らかにするための調査、あわせて実際に月参りをつとめる僧侶への聞き取り調査をおこなった。実施地域については地図データ化し、北海道・関西地方・東海地方・北陸地方・九州北部等で盛んであり、宗派による差異はなく、地域特性ともいうべき習慣であることが判明した。また、聞き取り調査からは、月参りの訪問先の多くで高齢者と触れ合っていることが明らかとなり、地域包括ケアシステムとの連携可能性をうかがわせるものであった。
　仮説をより実証するために、本研究グループは浄土宗大阪教区の協力を得て、2022 年 11 月、同教区所属寺院 486 ヶ寺に「月参りの実態把握および見守り機能についてのアンケート調査」を実施した。299 ヶ寺から回答があり、そのうち 90.6%の寺院が月参りをおこなっていた。訪問軒数は 248 ヶ寺で 14,275 軒、隔月や 3 カ月に一度訪問する軒数も合わせると 15,962 軒。1 ヶ寺が平均訪問軒数は 57 軒であった。訪問先での高齢者との接触率を把握するために、「高齢者のいないお宅は何軒ですか」と尋ねてみた結果は 2,892 軒。80%を超える高齢者在宅率であった。さらに、社会的孤立のリスクが最も高いとされる一人暮らしの高齢者の世帯は 3,360 軒となり、訪問先の 2 割を占めていることが分かった。
　さらに、月参りの平均滞在時間と読経時間を尋ねた結果、平均して 26 分の滞在、そのうち読経が 15 分であった。つまり 11 分は会話の時間ということになる。長く滞在する場合の滞在時間は、平均 54 分という結果であり、いかに月参りでの会話の比重が大きいかがわかるだろう。会話の内容を尋ねた結果、50% を超える上位 4 項目のなかに「身体的不調（65.3%）」があり、高齢者が話し相手である現状が反映されている。その他、「家族関係・親族関係の悩み（35.1%）」「精神的不調（25.5%）」「コロナ禍での悩み（25.5%）」「死別の悲しみ（24.4%）」「経済的な悩み（12.9%）」「知人についての悩み（10.0%）」と、単なる会話に留まらず、悩みを吐露できる時間となっている。また、実際に見守りや地域包括ケア的な経験をしているか、もしくは対応に困った経験をしているか質問した結果、最も高い割合を示したのが、「檀信徒の認知症や体調の変化（悪化）に気付いた」で 67.2%。体調の変化への気付きを可能にするのは、毎月の訪問があるからこそだろう。住民の異変への気付きは支援の第一歩でもる。「檀信徒の体調が心配なときに、離れて暮らす親族に連絡した」（25.8%）、「檀信徒の体調が心配なときに、行政や町内会等の相談先に連絡した」（8.9%）という数字から、気付くだけでなく、そこからサポートにつなげるアクションを少

なからぬ僧侶が経験していることも分かった。
　これらの結果から、月参りは、供養の場だけでなく、高齢者の心身の不調や悩み事を聞く機会となり、見守り・サポートのきっかけともなっていることが指摘できる。月参りは見守りや地域包括ケアを担う潜在力を有するのみならず、すでに担っているともいえる現実を明らかにできた。
④本研究期間中、4 回の調査を実施した。第 1 回：2020 年 5 月 7 日～5 月 24 日：517 名の回答、第 2 回：2020 年 12 月 7 日～12 月 28 日：304 名の回答、第 3 回：2021 年 12 月 1 日～12 月 22 日：353 名の回答、第 4 回：2022 年 12 月 5 日～12 月 26 日：311 名の回答であった。その回答の推移を分析した結果、①全国的に葬儀や年回法要の小規模化（参列者の減少）がみられ、定着化しつつある、②首都圏を中心に葬儀の簡素化（一日葬の増加）が進んでおり、徐々に東海地方にも広がりつつある、③年回法要はコロナ禍当初減少傾向にあったが、再開されてきており、供養の場自体は維持されている、④訪問型法務は早期に再開された一方、集客型の行事の再開は進まない、ということが判明した。我が国の葬送儀礼の大きな転換点となりえる新型コロナウイルスの感染拡大期の記録は、大きな学的価値を有するものといえる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計42件（うち査読付論文　16件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　20件）

１．著者名 Ogawa Yukan、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Toishiba Shiho、Ura Chiaki、Yamashita Mari、Okamura Tsuyoshi	４．巻 17
２．論文標題 Meaning of death among care workers of geriatric institutions in a death-avoidant culture: Qualitative descriptive analyses of in-depth interviews by Buddhist priests	５．発行年 2022年
３．雑誌名 PLOS ONE	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0276275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 Okamura Tsuyoshi、Ura Chiaki、Shimmei Masaya、Takase Akinori、Shoji Ryosho、Ogawa Yukan	４．巻 21
２．論文標題 Reflections of Buddhist priests who started a dementia carers’ caf? in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Dementia	６．最初と最後の頁 1856～1868
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/14713012221092212	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 Takase Akinori、Matoba Yuki、Taga Tsutomu、Ito Kae、Okamura Tsuyoshi	４．巻 22
２．論文標題 Middle-aged and older people with urgent, unaware, and unmet mental health care needs: Practitioners’ viewpoints from outside the formal mental health care system	５．発行年 2022年
３．雑誌名 BMC Health Services Research	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12913-022-08838-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

１．著者名 髙瀬顕功	４．巻 126
２．論文標題 コロナ禍における葬送儀礼の変化とその影響	５．発行年 2022年
３．雑誌名 宗務時報	６．最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

1．著者名 岡村毅、金子理沙、金子礼灑、近藤修正、柳澤弘明、高瀬顕功	4．巻 —
2．論文標題 地域包括ケアシステムにおける死生学―研究拠点で臨床宗教師実習を受け入れた経験から	5．発行年 2023年
3．雑誌名 老年精神医学雑誌	6．最初と最後の頁 投稿中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 小川有閑	4．巻 4
2．論文標題 地域における遺族支援の実践 ― 「府中市まるごとグリーフサポートの街」をめざして ―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 地域構想	6．最初と最後の頁 101-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 小川有閑	4．巻 25
2．論文標題 宗教者として遺族とどう向き合うか	5．発行年 2023年
3．雑誌名 コミュニティケア	6．最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 小川有閑	4．巻 5
2．論文標題 月参りと地域包括ケアシステムの連携可能性 ―アンケート調査からー	5．発行年 2023年
3．雑誌名 地域構想	6．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 小川 有閑、Ogawa Yukan、オガワ ユウカン	4．巻 11
2．論文標題 「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」の報告 ： 寺院の対応について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 53～69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/81456	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川 有閑	4．巻 3
2．論文標題 地域包括ケアシステムと寺院の連携についての試論―月参りの現状と可能性―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地域構想	6．最初と最後の頁 31～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川 有閑	4．巻 95
2．論文標題 激変する社会に寺院はどう対応するか―コロナ禍を例に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 智山ジャーナル	6．最初と最後の頁 6～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川 有閑	4．巻 32
2．論文標題 コロナ時代のお別れ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 老年精神医学雑誌	6．最初と最後の頁 982～985
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ura Chiaki、Okamura Tsuyoshi、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Ogawa Yukan	4．巻 21
2．論文標題 Mental well‐being of staff in long‐term care facilities at risk	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6．最初と最後の頁 966～967
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ogawa Yukan、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Ura Chiaki、Nakagawa Machiko、Okamura Tsuyoshi	4．巻 37
2．論文標題 Geography over doctrine? Factors affecting the role of Buddhist priests in a community‐based integrated care system	5．発行年 2021年
3．雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gps.5652	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ura Chiaki、Okamura Tsuyoshi、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Ogawa Yukan	4．巻 22
2．論文標題 We have fear of death in common: Factors associated with positive attitudes toward end‐of‐life care among care staff in long‐term care facilities	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6．最初と最後の頁 87～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14323	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okamura Tsuyoshi、Ogawa Yukan、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Ura Chiaki	4．巻 37
2．論文標題 Good death from the perspective of geriatric nursing homes' staff members	5．発行年 2022年
3．雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gps.5681	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 髙瀬顕功	4．巻 126
2．論文標題 コロナ禍における葬送儀礼の変化とその影響	5．発行年 2022年
3．雑誌名 宗務時報	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 髙瀬 顕功、Takase Akinori、タカセ アキノリ	4．巻 11
2．論文標題 新型コロナウイルスがもたらした寺院活動への影響 ： 寺院向けウェブ調査より	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 31～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/81455	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 髙瀬顕功	4．巻 276
2．論文標題 コロナ禍以後のお寺のあるべき将来を問うための調査結果分析	5．発行年 2021年
3．雑誌名 月刊住職	6．最初と最後の頁 94～103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 髙瀬顕功	4．巻 277
2．論文標題 コロナ禍で葬儀法事が小規模化簡素化されたのは本当か	5．発行年 2021年
3．雑誌名 月刊住職	6．最初と最後の頁 102～110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高瀬顕功	4．巻 278
2．論文標題 コロナ禍だからこそ決断したり始められた門戸を開く寺院活動の成果	5．発行年 2022年
3．雑誌名 月刊住職	6．最初と最後の頁 80～87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okamura Tsuyoshi、Ogawa Yukan、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Toishiba Shiho、Ura Chiaki	4．巻 58
2．論文標題 Conflicts in the end-of-life care: Interviews with care staff by Buddhist priests and researchers	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Nippon Ronen Igakkai Zasshi. Japanese Journal of Geriatrics	6．最初と最後の頁 126～133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3143/geriatrics.58.126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ryosho Shoji、Ogawa Yukan、Takase Akinori、Shimmei Masaya、Ura Chiaki、Okamura Tsuyoshi	4．巻 未確定
2．論文標題 There is a place in the Sun: Buddhist temples as places for people with dementia and their carers	5．発行年 2021年
3．雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6．最初と最後の頁 未確定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gps.5529	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡村毅、的場由木、高瀬顕功、粟田主一	4．巻 2020年度号
2．論文標題 Dementia-friendly communitiesと死生観―ホームレス支援団体の実践から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代宗教2020	6．最初と最後の頁 129-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 髙瀬顕功	4．巻 11（1）
2．論文標題 新型コロナウイルスがもたらした寺院活動への影響 ―寺院向けウェブ調査より―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 31－52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/81455	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川有閑	4．巻 11（1）
2．論文標題 「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」の報告 ： 寺院の対応について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/81456	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川有閑	4．巻 3
2．論文標題 地域包括ケアシステムと寺院の連携についての試論 ―月参りの現状と可能性―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地域構想	6．最初と最後の頁 未確定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 髙瀬顕功	4．巻 9
2．論文標題 終末期ケア現場における仏教的資源導入の可能性:施設スタッフへの質問紙およびインタビュー調査から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 高瀬顕功	4．巻 30
2．論文標題 傾聴か法話か―僧侶として終末期ケアに向き合う	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教化研究	6．最初と最後の頁 78-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川有閑	4．巻 12
2．論文標題 超高齢社会における寺院・僧侶の可能性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6．最初と最後の頁 300-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川有閑	4．巻 93巻別冊
2．論文標題 月参りにみる地域特性―超高齢社会における寺院の役割―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 301-302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宇良千秋	4．巻 12
2．論文標題 なぜ，いま信仰・宗教なのか？	5．発行年 2020年
3．雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6．最初と最後の頁 292-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅	4．巻 12
2．論文標題 精神科医からみた認知症ケアにおける信仰・宗教の役割	5．発行年 2020年
3．雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6．最初と最後の頁 294-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅	4．巻 295
2．論文標題 僧侶との共同研究：限りある命の最も深いところを支える	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京都健康長寿医療センター研究所NEWS	6．最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川有閑	4．巻 92巻別冊
2．論文標題 超高齢社会における僧侶の新たな役割--月忌まいりから考える--	5．発行年 2019年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 380-381
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅、新名正弥、髙瀬顕功、問芝志保、林田康順、弓山達也、小川有閑	4．巻 13(8)
2．論文標題 A positive attitude towards provision of end-of-life care may protect against burnout: Burnout and religion in a super-aging society	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0202277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 問芝志保、新名正弥、小川有閑、髙瀬顕功、林田康順、岡村毅、粟田主一	4．巻 19
2．論文標題 Factors associated with positive attitudes toward care of dying persons among staff of geriatric care facilities in Japan.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International.	6．最初と最後の頁 364-365
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅	4．巻 8
2．論文標題 社会的文脈からみた認知症高齢者の支援の課題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 認知症の最新医療	6．最初と最後の頁 127-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅、川室優	4．巻 32
2．論文標題 貧困、孤独、絶望にある人の終末期を支える	5．発行年 2018年
3．雑誌名 精神科	6．最初と最後の頁 106-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅	4．巻 印刷中
2．論文標題 都市の単身・独居・無縁・低所得高齢者を支える研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自殺予防と危機介入	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村毅	4．巻 印刷中
2．論文標題 我が国のホームレス研究の現状と展望：精神医学の視点から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 臨床精神医学	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 新名正弥、中村律子	4．巻 59-3（No.127）
2．論文標題 2017年度学界回顧と展望　高齢者福祉部門	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会福祉学	6．最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計55件（うち招待講演　6件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 小川有閑
2．発表標題 新型コロナウイルスの寺院活動への影響とその対策―寺院向けウェブ調査より―
3．学会等名 真言宗豊山派埼玉県第一号支所布教師会研修会
4．発表年 2022年

1．発表者名 髙瀬顕功
2．発表標題 地域と共に生きる寺院と『集いの場』
3．学会等名 文部科学省課題解決型高度医療人材育成プログラム「職域・地域架橋型－価値に 基づく支援者育成」
4．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 仏教界の新潮流～社会にかかわる僧侶たち～
３．学会等名 豊島区ああそうなんだ倶楽部
４．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 現代に生きる仏教～老・病・死に向き合う僧侶たち～
３．学会等名 としまコミュニティ大学
４．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 グリーフケア～実践編～
３．学会等名 令和4年度中区訪問指導事業研修
４．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 寺院へのアンケート調査からみるコロナ禍が葬送に与えた影響
３．学会等名 浄土宗総合研究所シンポジウム
４．発表年 2023年

１．発表者名 東海林良昌
２．発表標題 寺院での社会貢献に関する活動について―介護者カフェの広がり―
３．学会等名 大正大学地域構想研究所BSR推進センターシンポジウム「超高齢社会における寺院・僧侶の可能性」
４．発表年 2023年

１．発表者名 岡村毅
２．発表標題 医療から見た寺院での介護者カフェの効果
３．学会等名 大正大学地域構想研究所BSR推進センターシンポジウム「超高齢社会における寺院・僧侶の可能性」
４．発表年 2023年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 月参りの実態とその可能性
３．学会等名 大正大学地域構想研究所BSR推進センターシンポジウム「超高齢社会における寺院・僧侶の可能性」
４．発表年 2023年

１．発表者名 宇良千秋
２．発表標題 高齢者介護施設で求められるケア―僧侶の関与の可能性―
３．学会等名 大正大学地域構想研究所BSR推進センターシンポジウム「超高齢社会における寺院・僧侶の可能性」
４．発表年 2023年

１．発表者名 Takase A, Ogawa Y.
２．発表標題 The Unrevealed Function of Buddhist Practice: The Monthly Home Visit as Mental Health Outreach.
３．学会等名 NKG25 Nordic Gerontology Congress.（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shoji R, Ito R, Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Ura C, Okamura T.
２．発表標題 Buddhist Temple as a Place for People with Dementia and Their Carers.
３．学会等名 NKG25 Nordic Gerontology Congress.（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 宇良千秋，岡村毅，髙瀬顕功，新名正弥，中川真知子，小川有閑
２．発表標題 特養職員の看取り介護への経験・態度と精神的健康の関連（１）：宗教者が施設ケアに関わる可能性について
３．学会等名 第22回日本認知症ケア学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 岡村毅，宇良千秋，髙瀬顕功，新名正弥，中川真知子，小川有閑
２．発表標題 特養職員の看取り介護への経験・態度と精神的健康の関連（２）施設ケアラーの考える理想の死に関する予備的分析
３．学会等名 第22回日本認知症ケア学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 地域と共に生きる寺院と『集いの場』
３．学会等名 東京大学　職域・地域架橋型－価値に基づく支援者育成プログラム
４．発表年 2021年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 コロナ禍と寺院のこれから
３．学会等名 真言宗豊山派東京三号支所仏教青年会勉強会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Ura C, Okamura T, Takase A, Shimmei M, Ogawa Y.
２．発表標題 Factors associated with positive attitude toward end-of-life care among staff at long-term 2.care facilities.
３．学会等名 IPA（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 アフターコロナの葬送儀礼－リモート法要の意義を考える－
３．学会等名 東京教区浄土宗青年会研修会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 現代に生きる仏教～社会に向き合う僧侶たち
３．学会等名 としまコミュニティ大学
４．発表年 2021年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 葬送儀礼の変化がもたらすグリーフケアへの影響
３．学会等名 第14回日本スピリチュアルケア学会学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 グリーフケア研修会～残された家族を支えるために～
３．学会等名 令和3年度中区訪問支援事業研修会
４．発表年 2021年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 『ホーム』を失って生きる―ひとさじの会の支縁―
３．学会等名 天理大学おやさと研究所宗教研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 新型コロナウイルスの寺院活動への影響とその対策－寺院向けウェブ調査より－
３．学会等名 国際宗教同志会例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 社会福祉法人・職員に期待する事
３．学会等名 社会福祉法人川崎聖風福祉会実践・研究発表大会基調講演
４．発表年 2022年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 新型コロナウイルスの寺院活動への影響とその対策－寺院向けウェブ調査より－
３．学会等名 浄土宗群馬教区普通講習会
４．発表年 2022年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 寺院によるひきこもりの若者支援
３．学会等名 川崎ネット縁シンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 岡村毅，小川有閑，髙瀬顕功，新名正弥，問芝志保，林田康順
２．発表標題 高齢者ケアワーカーは医療をどうみているのか：僧侶による深掘りインタビュー
３．学会等名 老年精神医学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査①
３．学会等名 （公財）浄土宗ともいき財団ともいきWebセミナー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査②
３．学会等名 （公財）浄土宗ともいき財団ともいきWebセミナー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 新型コロナウイルスがもたらした影響―寺院向けWeb調査より
３．学会等名 令和2年度浄土宗総合学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 コロナ禍が寺院活動にもたらした影響―集いの場と支援ネットワークの展開
３．学会等名 （公財）国際宗教研究所シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 コロナ禍が寺院活動にもたらす影響―寺院向けWeb調査の結果から
３．学会等名 国際神道セミナー（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小川有閑、高瀬顕功、東海林良昌、岡村毅、新名正弥、宇良千秋
２．発表標題 台湾における実践仏教組織視察報告
３．学会等名 台湾における実践仏教組織視察報告会（東京都健康長寿医療センター研究所）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 超高齢社会における寺院・僧侶の可能性
３．学会等名 第20回認知症ケア学会大会シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡村毅
２．発表標題 精神科医からみた認知症ケアにおける信仰・宗教の役割
３．学会等名 第20回認知症ケア学会大会シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川有閑、新名正弥、高瀬顕功、問芝志保、弓山達也、林田康順、東海林良昌、宇良千秋、岡村毅
２．発表標題 施設ケアにおけるバーンアウトと虐待予防―宗教的アプローチの試み―
３．学会等名 第34回日本老年精神医学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 月参りにみる地域特性―超高齢社会における寺院の役割―
３．学会等名 日本宗教学第78回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 月参り・中陰参りの持つ可能性を考える
３．学会等名 令和元年度浄土宗学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 「宗教の社会貢献」論を考える
３．学会等名 令和元年度浄土宗学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 月参りの実態と効果ー地域包括ケアシステムから考える
３．学会等名 2019年度第1回「宗教と社会貢献」研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 超高齢社会における宗教者の可能性
３．学会等名 第26回多文化間精神医学会学術総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高瀬顕功
２．発表標題 The Role of Religion in Secularized Society ;A New Trend of the Engaged Buddhism in Japan-
３．学会等名 Baylor University Medical Center, Dallas, USA
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇良千秋
２．発表標題 Aging Meaningfully: Psychological Approach of Dementia Care
３．学会等名 Baylor University Medical Center, Dallas, USA
４．発表年 2020年

１．発表者名 新名正弥
２．発表標題 Current Situation Surrounding Religious Care in Japan
３．学会等名 Baylor University Medical Center, Dallas, USA
４．発表年 2020年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 超高齢社会における僧侶の新たな役割--月忌まいりから考える--
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 認知症の人の根源的不安を支える宗教者の役割について～仏教者の立場から～
３．学会等名 認知症ケア学会関東2地域部会Ｉ
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 超高齢社会と仏教者（１）：施設ケアで求められる支援
３．学会等名 平成30年度浄土宗総合学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 超高齢社会と仏教者（２）：公的空間への参入の課題
３．学会等名 平成30年度浄土宗総合学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川有閑
２．発表標題 超高齢社会における寺院・僧侶の可能性
３．学会等名 第17回N-Pネットワーク研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 髙瀬顕功、小川有閑、新名正弥、問芝志保、岡村毅、今井幸充
２．発表標題 高齢者ケアにおける仏教者に対するニーズ調査．超高齢多死社会の終末期ケアに関する新たな研究枠組み
３．学会等名 第19回日本認知症ケア学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川有閑、岡村毅、宇良千秋
２．発表標題 私たちは認知症ケアにどんな人生の意味を見出せるのか；宗教都市京都で考える
３．学会等名 第20回日本認知症ケア学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 終末期ケアにおいて求められる宗教者の関与の在り方
３．学会等名 2018年度第1回「宗教と社会貢献」研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡村毅
２．発表標題 都市の単身・独居・無縁・低所得高齢者を支える研究
３．学会等名 第42回日本自殺予防学会　シンポジウム１：地域介入の実際
４．発表年 2018年

１．発表者名 髙瀬顕功
２．発表標題 超高齢社会における仏教的資源活用への期待と葛藤―高齢者福祉施設・医療施設に対する調査を踏まえて―
３．学会等名 平成30年度大正大学学内学術研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川有閑、髙瀬顕功、東海林良昌、岡村毅、新名正弥、宇良千秋
２．発表標題 台湾における実践仏教組織視察報告
３．学会等名 台湾における実践仏教組織視察報告会（東京都健康長寿医療センター研究所）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡村　毅 (OKAMURA Tsuyoshi) (10463845)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・専門副部長 (82674)	
研究分担者	林田　康順 (HAYASHIDA Kojun) (50384681)	大正大学・仏教学部・教授 (32635)	
研究分担者	宇良　千秋 (URA Chiaki) (60415495)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員 (82674)	
研究分担者	新名　正弥 (SHINMEI Masaya) (70312288)	田園調布学園大学・人間福祉学部・准教授 (32720)	
研究分担者	高瀬　顕功 (TAKASE Akinori) (90751850)	大正大学・地域構想研究所・専任講師 (32635)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	問芝　志保 (TOISHIBA Shiho) (20840763)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・外来研究員 (62501)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	東海林　良昌 (SHOJI Ryosho)	浄土宗総合研究所・研究員 (92619)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関